

《ロンドンからのたより(両親宛)》 ・1973a
～ホステル暮らし・ちょっと一息～



1973年3月9日

お父さま&お母さまへ

こちらでは春を告げる花々も咲き揃い、いい陽気を迎えております。ホステルでの暮らしにも慣れてきましたし、ようやく身辺も落ち着いてきました。どうぞご安心ください。

さて、『タヴィストック・センター』のトレーニング・コースを申請した件ですが、ついに本日、午後4:45pm 指定のお約束をいただき、Mrs. マーサ・ハリスとおっしゃる児童セラピー・コースを統括する主任教官との面接がありました。夢のような想いが実現してゆく第一歩なのでしたが、話の内容の概略はこういうことになります。

即ち、今年の秋10月から1年間、まずは夕方のコースで、週1回開講される講座の受講生(パート)になることが承諾されたのです。それで順調にゆけば、来年の10月以降、正規のコースのフルタイム研修生になるというものでした。トレニー(研修生)の枠をひどく制限しているので、たくさんの方がチャンスを待っているということで、今年の研修生は既に決まっています。つまり私が今年はパートだけど、来年はフルタイムの研修生になるということを一応約束されているように。つまり順番待ちみたい。但し、個人スーパーヴァイザーは、希望すれば付けてもらえるとか。またその講座の席で、私のケース・レポートを発表できるとか、一応身分の保障やら研究の援助の保証やらは得られるわけなのです。さらに、ミセス・ハリスは現在コースの研修生(つまり私の先輩になる)のどなたかを個人的に

私のために今後いろいろと援助やアドバイスしてくれる人としてご紹介くださることをお約束されました。

以上のことを聞かされ、初めどう考えていか判らなくて、混乱しちゃったのだけど。結局私は承諾しました。3月の末か4月の初めに養護施設『ホリス』に就職するとして、その経験は絶対に私のためになることは確実だし、身分は一応公務員になるので週2回は完全に休めるし、どうも看護婦さんの仕事みたいに勤務時間がシフト制で不規則みたいだけど。とにかくビルギットというオランダから来た女の子(その子のツテで今回、私は就職のきっかけをつけたのだけど)の話を聴くと、決して楽じゃないけど、スタッフの宿泊施設が別棟にあるとか、食料は冷蔵庫にワンサとあるとか、つまり職員としての待遇はすごくいいらしい。他のスタッフたちも親切にしてくれるって。そんなので給料は高額を望めないかもしれないけど、オペアのように半人前扱いされて惨めな思いをすることは決してないようだし、私はやってみようと思ったのです。『タヴィストック』に一応研修生として籍を置き、サポート体制も大いに有り難いですし、いずれ徐々に自分の定位置も決まってゆくことでしょうと思われます。

ところが、インタビュー(面接)からの帰途、道端を歩きながら、涙ポロポロで泣けて泣けて仕方なかったのです。何故かと云えば、今年10月から4年経てば帰国と思ってたのに1年加算されたことになったのが何ともショックだったの。自分にいろいろ言い聞かせ、確かに今年の10月からというのはどうも時期尚早の感がしていたし、経験不足とか、英語力もまだ十分とは言えないような気もするし、そんなこといろいろ考えたら、まったくミセス・ハリスの申し出は私にとって適切というかむしろ好都合とも納得できるのに、これ

で日本が1年また遠のいたという感覚がどうも我慢できなかったのです。どうも私はいつになっても親離れが出来ないでいるのかな？

このホステルで出会った中国人(ポルネオから出身)の女の子は、4年間教師をしてたけど絶望して、ヘアドレッサーになることを決意して、今ロンドンの美容師養成学校で8ヶ月間の講習を受けているんですって。そのアリサが本当によくしてくれるのだけど。昨日もヘアークットとセットを部屋でしてもらったのよ。彼女が言うの、<親はいつかは死ぬんだから、自分の足で立つてゆかなきゃダメだよ>って。時折‘格言’めいたこと言う子なのだけど。まったく私も日本へ帰ることばかり考えてないで、此の地で堂々と生きてゆける、タフな人間になんなくあつて、今晩はしみじみとそんなことを考えています。

まあそういう次第ですから‘日本恋し病’を脱して、がんばらなきゃと思ってます。とにかく長い間待っていた答が出たのですから、これで一応ホッと安堵してます。明日からは新しい希望をもって生きてゆけるという感じです。

いずれ又。さよなら 千鶴子より

(住所:c/o CRAVAN HILL HOSTEL
22a Craven Hill Gardens,
London W2 England)



1973年3月13日

お父さま&お母さまへ

願い事ってなんでもそうだろうけど、叶えられてしまえばあつけないことでも、待つ迄が長かった！ひとまずは『タヴィストック』との繋がりができたわけです。それもフルタイムではなくパー

トの研修生になるというのは、考えればごく順当だよ。ちょっと最初はつまみ喰い程度でも大いに結構。欲張ることでもない。私はどうも4年課程のコースだから、4年で卒業するんだって、だから4年間こちらで頑張ればいいんだなんて頭から思い込んでいた節があるけど。専門性を極めるって長い道程だもの。取り敢えず‘入り口’は分かっても‘出口’があるものやらどうやら。今のところ皆目見当も付きません。コースの修了の際の資格づけなど今の時点では話題にするのも憚れるわけで。私自身‘資格’を目的にはしていないつもりでもあるし。とにもかくにも此国で可能な限りのチャンスを与えられたらいいなと思っている。一つ一つの経験が値打ちなのだから。選択は自由だし、その選択は重要視されるし、あとは本人が己れの意味に従って頑張るだけで、お金さえ続けばだけで、周りの人も援助が出来る態勢になってるし、ごく無理ないところで時間は経ってゆくでしょう。

ところでトレーニングの費用のことだけど、やっぱりミセス・ハリスに尋ねられたよ！私は、親からの援助を期待できるって返答しました。父親がかなり成功している会社の社長だからって(!?)。こうした状況では謙遜しても始まらないし、まっ、そういうことに…。こちらの‘不安材料’はあちらに覗かせないのが得策というか、むしろそれが礼儀だろうと思うの。で、それ以上はもはや問題はないわけ。正直なところ、私にしてみれば親に経済的負担を掛けるということはなんとも申し訳なく、親への重荷を軽減するためにも、どこ迄今後自力でトレーニングの費用を工面できるか、いっそう奮起せねばと内心思ってる所です。

コースの主任でいらっしゃる Mrs.マーサ・ハリスという方の印象は、言うなれば四国巡礼のお遍路さんに‘先達’というのがあるでしょ。

あんな感じ！こちらはこれから先が長いし、どうなることやと身を固くしてるじゃない。だけどあちらは長い道程を一応心得ているわけだから、もう断然肩の力が抜けてるわけ！今回の面接にしても、合格・不合格って申し渡されると勘違いしてたけど、違うの。勿論候補者の選考は熾烈ではあったんだろうけど。四国巡礼だってそう、今‘歩き始める人’に向かって、貴方は大丈夫とかもしくは大丈夫じゃないとか言うことなぞしない。唯、<よろしければご一緒いたしましょう>って告げるだけのことで。そんなおおらかというか膨らみのある自然な振舞いを感じさせられた。ゴールなど問題ではないってこと。その途中の歩みのプロセスにおいて、その時その場で遭遇する事柄の一瞬一瞬の積み重ねを大事にすることなので、私もどうやら『タヴィストック』に帰属意識を持てるかもと、大層励まされる思いがしたの！考えてみれば幸せなのよね。英国の『タヴィストック・クリニック』だもの！児童のセラピストとしてはまったく最初の日本人なんだから人に誇ってもいいのよ！ファーストランナーとしての気概云々ではなく、今まさにここから自分の人生が切り拓かれてゆく、そんな手応えありで感動してます。

インタビューの後、やはり気持ちが落ち着いたので、徐々に日本に帰ることばかり考えず、5年とか6年とかただもう辛抱するというのもなくて、異国暮らしもこれからはエンジョイ（楽しんで）やれると思いました。やはり仕事に精一杯自分を傾けるとか、いい同僚らと共に働ける職場があるということはまったく肝心なことだし、その間も、タヴィストック・クリニックで専門的な支援を得られるなら、それはもはや辛抱している姿ではなくなるし、親の側に安穩としていることよりもずうっと張り切って生きられる気がします。そんなわけで、これからは惨めに思ったり、淋しがらず

に、ここでの生活をうんと肯定し、逞しく生きてゆきたいものと覚悟が定まった感がするのです。私の‘夢物語’に付き合わさってしまいましたけど、ようやくにしてかく至ったのもお父さま・お母さまの愛情深いご理解のお蔭と深く感謝しております。では又。ご機嫌よう 千鶴子より



1973年3月19日

お父さま&お母さまへ

ここでのホステル暮らしも2週間以上経って、あちこち館内で顔見知りの誰かと会話を交えることも普通になり、結構居心地悪くありません。食堂にはテレビもありますし、読書室には客間があるので、自分の個室に居るだけでなく、随時気分に従ってくつろげる場所をあちこち移動してるの。時間を持て余しているどころか、こんなふうに好き勝手に時間を裁量できるってことが最高です。ここでのお食事は朝と夜、週末の土曜・日曜ですと朝・昼・夜です。メニューはイギリス料理なのでやはり多くは期待できないとしても、まあまずまずといったところで、量的には充分ですし、特に不満を覚えずにおります。

徐々にここで周りが見えてきたんだけど。ほんと人それぞれだけど、その人間模様というのがなんだか物凄いのよ。なんとこのホステルに5年も10年も居る人がいるって！とてもじゃないけど気が狂っちゃうなと思う。年齢がもう40は越えてるかと思われる人が5、6人いるけど。まるでここホステルの主みたいな感じで、どうも個室を陣取ってる感じ。中にはやはり誰かとシェアしてるかも知れないけど。まあ考えてみればこって居心地は悪くないのね。お風呂はいつも入れるし、シーツは当てがわれるし、食事付きだし、テレビも観れるし、紅茶はいくらでも飲めるしね。

だけど職場以外に自分を必要としてくれる人がいないってのは絶対おかしいよね。彼女ら皆馴れっこになって、自分が安穩に生きられたらいいって顔して、新参の若い女の子らとは特に言葉を交えるわけじゃなし。1週間の宿泊料が7.70ポンドってのはまったく格安なので、ここを追われちゃ困るって、しっかり自分の立場を守っているだけの感じなの。ああなったら、女でもなく人間でもない感じだよ。何をどう思って生きているのやら、仕事に生き甲斐があるのやら。彼女らの殆どはやっぱりハツラツとした女らしさが欠けてるわけ。どちらかという人畜無害ってところで、殊更に害意は感じられないですけど。。

それからね、このホステルでこしばらくチーフ代理になっている人がいるけど(今チーフは休暇中なの)、その彼女が恐ろしく些かヒステリー・タイプなの。ホステルの誰も彼女を敬遠しちゃって、なるべく関係しないでおこうとしているの。おっそろしいからね。他の女性スタッフと違うと思ったら、独身なんだそうです。他のスタッフはよく言葉を掛けてくれるし、冗談言ったりで愉快なのだけど。。中国人の女の子(アリス)が<それは結婚していないから、人の心が解らないんだ>って。凶星みたい！私も一度、そのチーフ代理と、同室の女の子(イギリス人)がどうもまるできちんとする観念がないから出来たら別の部屋に変えて欲しいって申し出て、一戦交えたけど。その言葉や態度の意地悪なこと！どうも聞けば、事あるごとにそんな風な態度で女の子らを憤慨させているらしいけど。何が面白くてそんな風なのだろうと思う。不幸なんだろうけど、まったく救いようのない人ってあるんだなと思ったわよ。

それからここでもイギリスの女の子のきちんとしない・清潔にしないってのは有名なのだよ。

何故だか解らないけど、それだけ物資に乏しく、大部分が貧しく育っているからだろうけど。外国人の私たちにしてみればまったく侮蔑しちゃう感じなの。それでいて、あちらはプライド高くって、自分は何でも知ってるって顔するから、よけい鼻持ちならないのだけど。同室のジェレイはおかしな女の子だけど、今のところ別に害になるわけでもないの、適当に折り合って暮らしてます。

私は休養がてら、そろそろあちこちロンドン市内を見物して歩き回ってるの。因みにこのホステルはケンジントン・ガードンズに程近いところで。ブラック・ライオン門から入るんだけど、目の前に広がる鬱蒼とした西洋トチの並木道が壮観なの。ケンジントン宮殿の辺りをうろついて、池を巡ってからハイドパークへと向かい、そこでハイドパーク名物のピーターパンの像を眺めるのが、私のお気に入りの散歩コースです。



この頃は近隣の図書館を物色して歩いて、読まなきゃいかん本をワンサと見つけては頑張らなくちゃなんて発奮したり、結構忙しくしています。それに、嬉しいことが一つ。ハイドパーク公園の隅の地下道をぐぐって地上に出たところがグリーンパークって公園なのだけど、『日本大使館』がすぐなの。そこに「広報文化センター図書室」が併設されてあって、散歩のついでに折々に立ち寄るの。狭苦しい一室だけど、蔵書もまずまずで、日本の新聞は勿論、雑誌やら定期刊行物もあれこれ揃えてあって、つい居心地良くて長居しちゃう。特に月刊『芸術新潮』は

夢中になって読け耽って、保管倉庫の古い号までも見せて貰って、もう不要だからとかあちらが言うのでちゃっかり貰ってきちゃったり・・。日本のアートの動向を把握しておきたかったもので有難かったわけ。まあそんなこんな刺激がいっぱいで、‘日本恋し病’はますます宥められてます。

そちらからのたよりでジュンちゃんが日に日に可愛くなっているとか。我が家の初孫だものねえ。嬉しいだろうなあ！会いたいなあ！

いずれ又。かしこ 千鶴子より



1973年3月21日

お父さま&お母さまへ

ハイパーク公園の池の側で今この手紙書いてます。朝まだ早いのですが日の光が暖かいの。水鳥を眺めるのがすごく面白いよ。白鳥がビャーと羽根を広げて、水面すれすれに飛び上がって、追い駆けっこする様なんて傑作だよ。それから、おしどり夫婦で有名な例の水鳥だけど、本当に殆どいつも雄と雌とがくっついてるんだけど、中には三角関係状態のやら、それから雌を困んで4、5匹雄がいたりで、どうい関係になっているのやらと笑えてくるの。烈しく追い駆けっこしたり、クワックワック鳴き交わしたりしている彼らを眺めながら、この安穏な時の流れにひとまず身を委ね、心慰められているのです。

先日ドクター・カーベルのお誘いで、『ビクトリア・アルバート博物館』を見物して、後ノルウェー人経営のレストランで食事をしました。ビッフェ形式で真ん中のテーブルに大皿に盛り付けられたご馳走があれこれ並べてあって、好きなだけ取って食べるの。ちょっと珍しかった。給仕の女の子の服装がこちら風で可愛かったのよ。

ドクター・カーベルは女医さんで、若くはないけど(未婚で)、どうやら苦勞のないお方で、一方で私は若くても苦勞がどっさりありすぎるほどあるでしょ。話が合わない！スコットランドの出自とかですが、英国人としての誇りがあるから、私にしてみればあまり不躰なこと言えないわけ。オペアの酷さなんて、直接火傷したもんじやないと解んないものだし。だから表面的なことだけしか話せないから、ご一緒しても心底愉快なはずないでしょ。だけど、バーミンガムのケトルご夫妻を訪ねるときは近くにいる彼女のお姉さまの家を訪ねるようとか、同僚の誰かが日本に興味を持っているので一度夕食にご招待するとか、四月に休暇を取るけどそれ迄にもう一度会いたいとやらあれこれ。なんでそんなに親切なことおっしゃるのだからって思うのよ！これもヤスダさんのお蔭ではあるんだけど。人の善意の繋がりの中にいるんだなって、しみじみ有難いわけです。でも実は、ヤスダさんって方はよんどころない家庭の事情で志半ばで泣く泣く帰国を余儀なくされてるの。それを伺っているものだから、まるで自分が彼女の後釜に居座ったみたいで、正直言って、彼らとご一緒しててもどこか気兼ねなのよ。まあ何がどうであれ、ドクター・カーベルは、これ迄の私のロンドン滞在においてはなくてはならない人だったのだから、感謝しなきゃね。

この頃つくづく自分の属する世界と属しない世界があるということを感じる。同じ種類の人間と暮らしたいよ！それを改めて思わされたことがあるの。ホステルの管理しているチーフの女性が休暇から戻ってきて、部屋を検査して廻ったの。折り良く私は自室に居ただけど。部屋の汚さに彼女呆れて怒ったの。ジェレイの下着やら服やら靴やら何やらがもうゴチャゴチャに放りっぱなし！それで私も、もう我慢が出来ないって

言ったの。そしたら、<そりゃそうでしょ、あなたはとてきちんとしているものね>って解ってくれて、早速別の部屋を与えてくれたの。

新しいルームメイトが、なんと偶然だけど、心理学(教育)を勉強しているペルシャの女の子だったの。とにかくほっとしてぐっすり眠りました。常識というものが通じる人と通じない人がいるってことが解ただけでもいい教訓になったけど。まったく呆れることの多いロンドン暮らしです。でも気候は最高で、今日この頃はすっきり晴れ晴れとしています。ではいづれ又。かしこ

千鶴子より



1973年3月25日

お父さま&お母さまへ

最近私は本当に落ち着いて、朗らかになりました。特に、ルームメイトのファティ(ペルシャの女の子)が常識のある人なので、一緒にいてもよく言葉を交えて愉しくやれるので嬉しいです。クラシック音楽が好きで、それぞれのラジオを鳴らして、ステレオにして2人で喜んだり…。そんな他愛のないことだけど、同じ趣味を持っている人というのは安心の出来るものです。

珍しかったのは、彼女の講義ノートを覗いたら、なんとペルシャ文字がスラスラと書き綴ねられてあって、それがまるで絵図模様みたいな。一字一字が踊ってる姿というか動きにも似て、勿論解読不能なんですけどすっかり魅了されたの。‘未知’の扉を開けたら、そこに‘異国’があったってわけで、実に不思議な感覚でした。

それから、時間は心の傷を癒すものだと改めて思う。ここでホステル暮らしを始めた当初は、もう誰かに雇われるなんて真っ平ご免だという心境だったけど、この頃はなにかしら仕事始

めたいなってウズウズしてきたみたい。随分と気持ちに余裕が出てきたのです。あっちこち見るもの・聞くものに大いに刺激されてるわけで、しっかり頑張らなくてはと心を励ましているところなの。ほんと贅沢で勿体ないのだけど、これから先のことを考えれば、ここでほっと一息付けたってことは実に正解でした。誰に相談することもできませんし、自分に相談しながら自由な裁量で生きることを日々学んでいます。異国暮らしが必ずしも辛いとも云えない、徐々に楽天的になりつつあります。



『タヴィストック・クリニック』の件では、インタビューの前はコースを修了して帰国することばかり頭にあっただけど、近頃は全然それよりもまずしっかりとここで学び、此地においても優れた仕事ができるセラピストになることをまず目指したいものと考え始めています。この道は、師弟関係(まるで家伝伝授)みたいなことがひじょうに重要なので、4年やったら終わるというものじゃないのですが、そこら辺のことを当事者以外の人に理解してもらうのはひじょうに難しいのですが。唯、いい環境、いい師、いい同僚を絶対的に必要としているということであって、帰国後日本で若い人を指導育成するのは、少なくとも私が40を過ぎてからと考えています。此地での生活は、自分と同じ種類の人間たちと生きてる限り、決して悪くありません。このまま順調にゆけば張り切って生きられるのではないかと思っています。

ご質問の件、『タヴィストック・センター』修了後の資格取得ということでは、大學で授与されるM.A(マスター)とかPh.D(ドクター)の学

位に匹敵するようなものはそもそもありません。無いという事実は国際的レベルで無いのです。技芸の習得に近い家元制度みたいなもので、修了の段階で『ブリテッシュ・アソシエーション・オブ・チャイルドサイコセラピスト』という協会の正会員として登録されるぐらいで。これは国際的に認知されてる。つまりは一流のセラピストとしてのパスポートぐらいにはなる。此国に滞在する限りはタヴィストック圏内でのなんらかの身分の保障があるんだろうと思うけど。大概その殆どは‘個人開業’を目指らしいと聞いてます。つまり有料で患者を診るということが承認されているわけ。

それから実力としては、修了時期には京大のPh.D(ドクター)の学位をたぶん簡単に取得可能なレベルになっているかと思われます。でも私は全然その野心も意欲も無いの。殊更それに意味は無いからですけど。たとえ博士論文を仕上げても、それを審査する大学教授たちに解読できるものかどうか疑問なのです。直観的にだけけど、今の日本での精神分析の学問レベルからして、まず当面は無理と考えられます。いずれ日本の事情に鑑みて、そうした必要性があれば将来検討したいとも考えます。

唯、私が狙っているのは飽くまでも臨床実践での力量であって、アカデミックな精神分析的研究ではないのです。心理臨床家としての実践的な有能性を取得資格やら学位やらで評価・査定できるならば、事はうんと簡単でしょうけどね。通り相場は概してそうなのだけど。それで済ませられるんだったらわざわざ此地に来ることもなかったわけで・・・ごく素朴なところで、専門的なスキルを磨きたい、そのためには今のまま日本に居てはダメだと分かっているけど、その先は皆目見当が付かないわけだったのね。研修コースがあるならば、とにかくもそこにまず身を置いて、

それでこの成り行きを見定めてみたいと思って渡英を決意したわけだったの。

それから、Mrs.マーサ・ハリス宛にそこから礼状を出すか否かの件ですが、全然その必要はありません。お礼を言うとか言われるとかの関係じゃ全然ないのであって、まして親がお礼するなど、あちらにはまったく不可解やろと思う程そこら辺が日本とここでは違うのです。無理なところを好意で入れてもらったのじゃ決してないのであって、順番を待つということは誰でも同じだし、ただ受けたいという意志がある以上、それはもう権利になるのであって、入所資格の但し書きに当て嵌まる以上、誰も入る前に殊更に差別されることではない。万事が実に平等なのです。

ですけど、おそらく私の場合は大変に驚きと期待を持って迎えられることは確かです。今、特に西洋と東洋の交流がひじょうに期待されているのであるから、貴重な存在になることは間違いない。それだけに私の方はつい気負う気持ちがあつて、でもそれを苦労だとしても、もしかしたら、だからこそ面白いと頑張れるのではと、いつかそう考えられるようになればいいがと切に祈っているのです。

それから経費のことは、パート(週1回・夕方)受講生の場合は、年48ポンドです。フルタイム研修生の場合は、1年目225ポンド、2年目225ポンド、3年目95ポンド、4年目95ポンドです。(1ポンド=約800円として計算すればいいです。) それから、大事なことは、将来必須になりますが、講義やらセミナー以外に、個人分析というのを受けなきゃいかんのですが、それが年に700ポンド掛かるとのことです。3年目からは給料が支給されるアルバイトが持てることですが、それまでは(初めの2年間)無職なので、他に経済的援助を期待することはでき

ません。それだから初めの2、3年は莫大な出費になるかと想定されるわけで、私もちょっと頭を抱えています。但し、そのうち内部の実情に通じた人と話したら、実際はそんなに頭を痛めることでもなく、なんとかやってゆけるのかも知れません。それだから、今のところは、パートで1年間様子を見て判断したらいいことであって、遠い先のことをよくよしても始まらないと腹を括っております。親に過大な経済的負担を掛けることは、私としては極力回避したい一心でおりまして、いい方法はないかしらと考えています。とにかく今は、何もわかんない・・・としか答えようがない実情です。とにかくあれやこれやと思い煩うことにエネルギーを費やすことがあまりにも多いので、当分は遠い先のことは考えないことにして、今日の前の学ぶことをしっかり学ぶ姿勢でいます。まるで‘獣道’に分け入ったかのような印象だけど、一步一步踏みしめて歩んでゆけたらいい。それでいつか道も付いてゆくでしょう。肝心なのは、今を充分生きているのでまずまず幸せと言えることです。

では又。かしこ 千鶴子より



1973年4月10日 =速達=

お父さま&お母さまへ

季節はもう春真っ盛りなはずが、こちらはまだ肌寒い毎日です。でも散歩に折々出掛ける公園の花々は今や美しく咲き誇っていて、その豪華さはイギリスの誇り高さを示すようなもので、日本では考えられないような贅沢さです。

さて、『タヴィストック・センター』から正式の入学許可の書簡が届きました。昔から几帳面なお父さまが私たち娘らの‘入学通知’をいつも大事にコピーしてくれてたのを思い出しました。ここに同封しましたので、どうぞご覧下さい。

ところが、驚いたことに、ちょっとインタビューの時の話と違うのよ。2つコースがあって、1つは正規トレーニングコースで、対象はごく限られた少数の選抜された人で、サイコセラピストの資格を得るための訓練を受けるというもの。もう1つのコースは夕方の単発の講義のみで、対象は必ずしもサイコセラピストを目指さないが、いろんな職場で既にプロとして仕事している人たちがスキル向上のために通ってくるというもの。

それで私の場合、正規のトレーニングの空席待ちで夕方のコースに入るのかと思っていたら違うのよ。ちゃんと正規コースのフルタイムのトレーニー(研修生)としての入学許可書なの。但し、新しい説明書を貰って解ったのだけど、飽くまでも実践を重んじる意味からだろうけど、第1年目は夕方に主なるセミナーとか研究会があるとのこと(去年からそうなったって・・・)。従って、第1年目は適宜仕事を持つことが期待されるってさ。その仕事というのも児童臨床に限らず対人援助のスキルを磨く多種多様な経験ということだけど。別に仕事を持ちながら、夕方センターへ行くということは考えていた通りだけど。正規コースのポストが与えられたということはちょっと信じられない思いなのよ。もしかして全て選考が Mrs. マーサ・ハリスの胸三寸で決まることで、インタビューの折、私は彼女に好印象を与えたということなのかも知れない！真偽のほどは知らされないけど、とにかくこのチャンスをいただいたことは物凄く光栄に思う。これから先のことは皆目解らないなりに、励まされたよ！おそらく一度コースに入っしまえばきっと道は拓かれてゆくと思うの。

そこで明日には早速、登録料(25ポンド)の支払いを済ませてきます。遅延の場合は他の希望者に席を譲ることになるとかだから・・・。

今日、嬉しいことがもう一つ。「斡旋所」へ再び行ってきて、生後18ヶ月の男の子のベビーシッターの仕事を頂きました。週3回、午後の時間帯で、週5ポンドの稼ぎになります。来週からで、今週の末まで日本の女の子がいて、週末に日本へ帰国なんですって。それで引き継ぎのためもあり、金曜日に会う予定です。感触としては、家庭の奥さんもごくまとも(上等の方)だろうと思いますし、何しろお金になって子どもと楽しく遊べたら嬉しいし、これもラッキーだなんて思いました。タイミングとか運とあって、怖いねえー。

それから、労働許可証のことで仲介してくださってるソーシャルワーカーの Mr.シンクレアに電話したんだけど、全然いつ当局から返事が貰えるか解らないって。(時間が掛かるんですって。結論を出すまでに・・・)何しろロンドン市が外国人へ給金をやるということだからね。普通のようにはいかんのかもだねえ。国際事情とかも絡んで難しいものらしい。日本人は此地では今のところ評判悪くないから、私はどちらかというと樂觀してたの。でも労働許可証の下りるのを待って、6週間と言われてたのが、もう7週間を過ぎていい加減焦れてきたもんで、そんなことをホステルで周りの女の子たちに話したら、2、3ヶ月は待たなきゃならないのが常識だよ・・・って言われちゃった！滞在の延期ならホーム・オフィスに行けば5分やそこらで済むけど。労働許可証のことでは、介入してくれた人たちに任せるしかないのですし。「吉報は寝て待て」が脳裏を過ぎった！とにかく何はともあれ英語力を付けることと、神経を逞しくすることにまずは努めなければと、このロンドンではなんと云っても自分を信じて頼るしかないんだからと言い聞かせております。

では又。 千鶴子より



1973年4月15日

お父さま&お母さまへ

やっとこちらも春めいてきました。日本では桜の花が満開なのだろうと、いろいろ想いを巡らせています。こちらの公園でもよく桜の樹を見かけますが、おっかしいのだよ。枝の先っぽに花が咲くだけなのよ。遠くで見たら確かに桜だと解るけど。ある種‘変態’だなあとと思ったら、桜もロンドンでは気狂いじめるのかなと可笑しくなっちゃった。今でもやっぱり日本のこと、あれこれ想うの。今頃は芹摘みしたんだったとか。野に咲くイヌフグリやらも。夜、日本の夢を見るのが楽しみです。いろんな昔のこととか、それからテレビで見たドラマとか俳優さんも結構何故か出てくるし・・・。

ベビー・シッターの仕事を来週からするのだけど、その引継ぎみたいなこと、これまで居た女の子が日本人ということだったので、久しぶりに日本語を話してみるのもいいかなと思って、グレンジャーさん宅に伺って、キミコさんという人に会って来ました。

奥さんが買い物に出掛けた後、2人で喋ったこと喋ったこと！日頃表現しないから、考えているのやら考えて無いのやら解んなかったけど、こうして日本語で日本人同士話すとすると話に際限が無くて、彼女もやっぱり此地でオペアとして酷い経験をたくさんしていたよ。よく笑う子で、終わってしまえばバカバカしいと笑えるものだね。2人で一緒に、<呆れたねえ、バカみたいじゃない>って笑い合ったけど。その当時は惨めで泣きに泣いていたのだから、可笑しなものだね。月日が経つということは、やはりいろんなことが見えてくる！賢くもなり遅くもなってゆくんだった励まされて嬉しかったわよ。

タヴィストック・クリニックの件は、優遇されたのやら何やら思いがけなく話しがとんとん拍子にうまくいって、私はここで日本へ帰るのは馬鹿げていると心を決めました。タヴィストックからの書簡に、＜第1年目は主要なるセミナーその他は夕方にあるので、トレーニーはそれぞれ家庭や施設で適当な仕事を持つことが期待される＞って書いてあったけど。実は、私は願書提出の際に、此地での仕事の履歴にオペアとかナニーとかの経験しか書けないので内心ちょっと引け目を感じてたけど。逆にそうした経験を高く評価されたのではなかったかという気がしたの。私がタヴィストックを選んだ理由はまさにそうした‘経験重視’に共鳴を覚えたからだけ。だから、ああ、やはり成るほどね！と痛く嬉しかったのよ。

V.家でのナニーの日々は酷かったけど、終わった今、そして気持ちが落ち着いた今振り返ると、実にいい経験させてもらったんだって分かるわけ。グレンジャーさんとこのジャスティン、オーストリア人とフランス人のご夫婦の子どもで金髪で碧い眼のぷつくらした愛くるしい男の子なの！その子に接するやり方とかね。一緒のお散歩なんか、すごく愉しんでる！



それから、昨夜は生後4ヶ月の未熟児のアレクサンドリアという名前の男児のベビーシッターしたの。こちらはなんとペルシャ人とギリシャ人のご夫婦の子どもなんだけど。私って、全然危なっかしくなく手際いいの。どうぞお任せくださいって言えるって気分いい！それまでの経験が、実際におしめ変えたりミルクを飲ませたりしたことがどんなに貴重なことだったかが解ったよ！それにやっぱり子どもは可愛い！でもアレクサンドリア

は何しろ未熟児だからか抱っこしても頼りない感じで、ちょっと私、最初びくついてたけど。ミルクを与えながら、徐々に彼の重みで腕に痺れを感じてきたりで、ふと妹のS子もジュンちゃんをこうやって授乳してるんだろなって凄く懐かしかったです。現在不安定な状況ではあってもいろいろと経験することが出来て、それを喜べるのだから、私はつくづく幸せだと思います。

ではいずれ又。 千鶴子より



1973年5月8日

お父さま&お母さまへ

もう早、五月を迎え、若葉が美しい季節になりました。私の方は至極順調に

います。18ヶ月と4ヶ月の男の子たちのベビーシッターはいろいろと学



ぶことが多く、彼らの母親は、一人はオーストリア人で、もう一人はペルシャ人ですから、イギリスの女性と違って厭な思いをさせられることもないの。こういう物言いで偏見めいてほんといけませんけども。私、イギリスの女性に対して相当アレルギーを起こしてるわね！でもやはり違うのよ。なんだろうね？彼女らに対しては、子どもについていろいろと気楽に聞けるし言えるしってのがあって、とてもいい関係！子どもを預かる以上、その母親とうまくやれるってのは大事なことよね。

そんなわけで、日々平穩に暮らしてしますので、あまり頻繁にたよりもせずにおりましたが。今日は一つ、とても嬉しいことがありましたので、それをお伝えしたくて書いております。

実は、例の航空券の件ですが、以前に帰りの切符の払い戻しは出来ないって情報が入った旨お知らせしてありましたが。それもあまりにもいろいろトラブルが頻出してのせいで会社側がストップを掛けたとか聞いてたのね。それが幾らかでも(たぶん100ポンドぐらいだろうけど)戻ることになったの。例のAWLや旅行代理店は利益を失いたくないから、<不可能だ、出来ません>って頑として押し通しているけど。国際法というのがあって、そんなバカなことはいんで。すって。ロンドンでは金にならないことにはフンとして誰も乗ってこないのが常識だから、此地で事情もよく知らない日本の女の子なぞ相手にしてくれるわけないと諦めていたの。ところが一緒に来たオペアの或る女の子に電話したら、航空会社に直談判して、4ヶ月以上も待たされた挙句やっとなつて最近決着が付いたって！

今朝私も教えられた通り、同じように手続きを済ませたの。かなり時間は掛かるけど、舞鶴の自宅へ山上昇宛で払い戻し金が届けられるとのことでした。前例もあることだし、かなり確実なことと当てにしていよいよです。危うく泣き寝入りするところだったわね。戻る金額のことはともかく、事情もよく知らない女の子たちがこのロンドンでAWLや旅行代理店のずる賢い、不親切な嘘に惑わされずに筋を通したのだから、もう嬉しいじゃないのね！

私も渡英して以来11ヶ月を過ぎようとしていますが、根が内気で控えめな性格だからか、折衝力が今ひとつ。下手すれば、殆ど向こうの言いなりにならざるを得ないことが多いの。ロンドンでは、大概誰もが休暇のために仕事をしているみたいなのだから、他人のことなど知った顔じゃないし。その情報能力も不確かなのです。だから余程こっちが食らいついてゆかない限

り、本気でなんぞ動いてくれないということも知りました。苦い経験をしながらも賢くなってゆくて手応えがまったく悪くありません。

気候も暖かくなり、我が家の池の錦鯉たちのお世話も随分と楽になったでしょうね。どんなに美しいかって想像しています。

どうぞかしこ 千鶴子より



1973年5月14日

お父さま&お母さまへ

もう五月を半ば過ぎて、日本では気候も良い頃でしょう。お母さまは十和田湖へ旅行の予定とか。こちらは気候が不順で、雨の日が多かったり、風がきつかったりなの。ちょっとでも陽が照ると、人々は公園の芝生やらベンチで、殆ど裸同然で肌をあらわにし、貪るように日光を浴びようと寝転がったりしています。

就職の件はやっとこさ格好がついてきました。つい先日、就職先の養護施設『ホリス』の事務局から書簡が届き、<貴女をアシスタント・ハウスペアレントとして採用することは私どもにとって大きな喜びです>とか何とか言ってきたけど。更なる課題は今週の水曜日に身体検査があって、その結果を待たなきゃならんのだとか。この頃はもうなるようになれと思って全然焦らないけど。給料も、まあちょっとは貯金出来そうだし、なんと言っても就職できれば、いろんな意味で儲けものなんやし、向こうの言うとおりにまずはやることをやると腹を括っているところです。

取り敢えずはこんなところで元気でおりますので・・・。ではいずれ又

千鶴子より



1973年5月16日 =速達=

お父さま&お母さまへ

例の送金の件ですが、今朝手紙とも同時に受け取りました。実にホッとしました。そちら舞鶴からの郵便局経由で2週間以上も随分長いこと掛かったわけで、初めてのことでしたからちょっとヤキモキしましたがね。そろそろ私の銀行の預金残高も底を突きかけていましたし。ほんと助かりました！有難うございました！

就職の方は今日身体検査が済んで、まあ後1週間でスタートできるやろうと思っていますけど。まともな就職をするのをあれほど望んでいたのだから、よっぽど嬉しいかと思いきや、今はまだ大した感想もないのです。はっきり嬉しいのは公務員という身分で、まずは自分の個室があって、週2回休めて、真っ当なお給料をもらえることです。仕事のことは実際に始まってみないと解んないけど、まあそこそこまともに役に立てるようにベストを尽くすつもりです。

それから、今日の身体検査のとき、どこも悪くないけど、仕事をするときや普段でも眼鏡を掛けなくちゃいかんって、ドクターに言われたのだよ。むしろ掛けないのは眼を悪くするってさ。私はテレビを観るときだけしか掛けないのだけど、なんやこの頃視力が悪くなっていったみたいな気はしてたの。そうなんだけど、眼鏡を掛けるのがシンキ臭いもんで、掛けないでいたんだけど。言われたからにはコンタクト・レンズを買おうかなと考えています。あーあって、ちょっと溜息！

今日の午後、ミセス・ハリスに呼ばれてタヴィストックに出掛けてきたのよ。私がまだ就職してないのでご心配くださって、或るお医者

さんのお宅で子どもの世話をする人を欲しがっているけれども、私にどうかというお話しでした。養護施設での採用が決まっているわけだから、その旨お伝えしてその件はお断りし、むしろ私が英語を習うとともに、イギリスの子どもの歌やら童話を教えてくれる人を得たいと言ったら、センターの誰か研究生をご紹介してくれるって。ご支援いただいているんだなあと改めて感激でした！

此地での生活にもこの頃は完全に慣れ始めています。そろそろ渡英して1年が終わるのだね。感無量です。ともかくいろいろとほんとにいっぱい有難うございました。私の方はトレーニングの件、切符の件、就職の件、総てうまく片付いて、これからはただ末広がりには拵がってゆくだけで、これからはお給料の中からもなにか珍しいものでも買って両親に送る余裕が出来るかとホクホクと嬉しい気分です。今、お金を如何に得るかということで、2, 3考えていることがあるのですが。やれるだけやろうと思ってます。しかし金儲けには投資が必要です。能力を育てること、コネを作ること(人間関係を広げること)など、かなり時間が掛かるでしょうし、その間、両親に援助をお願いすることがあるかと思いますが。その必要もないほどに万事うまくゆくかも知れませんが、今は皆目解りません。新しい職場では存分に学ばせてもらうつもりで謙虚にベストを尽くそうと思ってます。(1週間以内にスタートすると思う。)

それから、落ち着いたら、此地の日本人の社交クラブに入るつもりです。大使館関係とか、英国人の日本愛好家とか、大いに知己を拡げて、賢くなろうと考えています。いろんな、やらねばならんことがいっぱいあって、それが総て自分の成長・幸せに繋がることなのですから、私は嬉しい気分です。望みが総て叶ったことは

儲けた！ラッキー！ぐらいにしか考えなかったけど、私はもしかしてそれだけの‘値打ち’があるのかも知れないなどと、この頃ではちょっと自信を持って生きる姿勢になりました。有り難いわね。ではいずれ又。かしこ 千鶴子より



1973年5月23日

お父さま&お母さまへ

今日この頃は日本の梅雨のような気候で、ピャーと陽がきつく照ったかと思うと、ジャーと雨が降るとか、暑いような寒いような変な具合です。日本の今頃の気候は、最高に穏やかないい気候やろなあと懐かしんでいます。けれど、ケンジントン・ガードズの何百本もの樹木がいつせいに葉を茂らせ、芝生の草は勢いづいて急激に伸び始め、辺り一面緑が壮観なのです。

それから、テムズ河畔では白鳥が雛を孵らせていて、人々は飽きずに何時間でも見惚れているという具合です。白鳥の子ども(雛)って、童話「醜いアヒルの子」にもあるように、羽毛はやっぱり灰色なのですが、決して醜いことはなく、ホワァーと灰色で可愛いのです。まだ泳げないらしく、巣の中で母鳥の羽根の下で、ピィピィやっています。それから、マガモの子(雛)もいて、5、6匹も母鳥のあとに付いて一生懸命足掻きしているのですが、ちっこいのでスイスイと泳ぐというわけにはゆかないみたいです。父親みたいなのが側にいても全然関係ないらしくって、絶対母鳥の側から離れないで、母鳥を中心に5、6匹ピィピィやっているのは観ていて微笑ましいです。お天気のいい日は、あちこちで芝生に寝転がっている人がいたり、学校から引率されて来た子どもたちがボールを蹴っていたり、緑溢れる中で、人の着ている服の色が点々とカラフルです。

このホステルに移ってきた時は3月の初めで寒さがきつく、樹木も裸んぼで、私はマキシのコートを着ていたし、それから月日が経って春を迎えたわけだけど、ここら辺りの公園散策を十分に堪能できたことはほんとラッキーでした。黄水仙の季節(4月初旬)の美しさは格別でしたし、いろいろと忘れ難い思い出になりました。こんなにも長い間ホステル住まいをすることは計算外やったけど、自分にご褒美ってことで贅沢させてもらいました。良かったと思うことが多いのです。たぶん6月1日ぐらいから仕事は開始になると思うのですが、やっぱりホッとしています。お給料は日本で貰っていたのよりちょっといいぐらいなのです。あんまりまともに扱ってもらおうと大丈夫やれるかなと内心びくびくしちゃうけど・・・まあ儲けた！ぐらいに思って、いい経験をさせてもらいましょと前向きの気分です。では又。 千鶴子より



1973年6月5日

お父さま&お母さまへ

いい気候になりました。毎日私のたよりの届くのを今日か今日かと待っていたことでしょう。人に語るのも疲れるような話なんだけど。私はまだホステルに居て、6月11日(月曜)からようやく就職ということになりつつあるのです。終わったって喜んだ手紙を何週間か前に出したじゃないの。信じられない話なんだけどね。レントゲンの結果の報告書をやつのこと病院から受け取って(やはり1週間近く掛かった)、それを就職先のドクター(市役所の専門医)に速達で送ったんだよ。それが行く先不明なのだよ。一度問い合わせがあったので、既に送ったって答えたわけ。それが2週間後になって、私が痺れを切らして電話してやつのこと、向こうさん、担当の人が動き出して、受け取ってないって言うんだもの。

頭にきた！！郵便局に訴えるわけにもゆかず、あちらの秘書の落ち度にするわけにもゆかず、私はドクター宛の向こうからの封書に入れて送ったのだから、私に落ち度がある筈ないし、こんな話信じられる？私は早速、レントゲンのコピーを病院から貰って、次の日届けに行ったのだけど。それならそれでもっと早く知らせてくれたらいいのに。なんというのろま・バカなのかって、腹が立って腹が立って仕方なかった。それでも品位を下げないように(腹の中ではバカめって思っても)、丁寧な物言いで頼むしかないわけで、私もいよいよ人間が出来てきたみたいなのです！

ロンドンの人々は、全般に英国人は仕事熱心じゃないし、インド系は頼りにならん感じやし。まったくのんびり日向ぼっこしてるのが好きというお国柄か、ガツガツと仕事に精を出すことが皆無なのは呆れるほどで・・・とても日本人の感覚では理解できないのです。面と向かって話している時は、そりゃ皆親切で気持ちのいい人たちなのだけど。彼らに仕事は迅速に的確に片付けて！なんて期待したって始まらないわけ。私は顔や態度に出さないようにしてるけど、腹の中ではほんと飽き飽きしているのです。

でも振り返れば、まあなんという‘綱渡り’なのかとぞろ恐ろしい！私は日本を去年の6月12日に発ったじゃないの。此地で6月11日に就職するって面白いね。ハラハラする、もうまったく！当局に滞在延期許可を願い出なきゃいかんのです。滑り込みセーフよね！いろんなことが重なり、今日この頃は心労と焦りでドキドキ緊張したり、やれやれホッとしたり、まことに言うに言われぬ心境だったのです。

ところで、送金していただいた件ほんとに助かったのです。予期してなかったし、戴いても使わずに済むと思ってたのに、歯科治療でこ

頓に出費が重なり、もうやれやれお蔭さまでしたわけで。一応治療の要するところは徹底的にやってもらったの。まあ今、時間の余裕のある時に受診できて良かったかなと思う。就職前だけに気を使います。改めて感謝しております！

それから、この頃は養護施設の子供との出会いに備えて、熱心に図書館で子供関連の書物を読み漁ってます。いよいよプロ意識を持ってそうです！就職先はケント州のシドカップといって、ロンドン中央からはかなり遠隔地で、抜群に環境のいい所のはずです。養護施設『ホリス』の住所は勿論承知してるんだけど、いずれ私が身を落ち着けるスタッフの家やら詳しくはまだ確定してませんため、正確な私宛の住所はいずれ近々お報せします。どうぞご心配なさらずに待っていて下さるように。

こちら白鳥やマガモの雛たちもだいぶ大きくなってきてます。公園では人々が、あちこち芝生でごろごろ日光浴したりボール蹴りしたり、実に閑かです。そちらの気候も暖かくなり、我が家の池の錦鯉たちも大いに跳ね回ってるかしら？水面を叩くバシャン！の音が聞えてきそう・・・日本が懐かしいです。お父さまもお母さまも毎日忙しくしておいででしょう。ジュンちゃんもすくすく健やかに育ってるみたいね。皆が夢中になって可愛がっている様子がよく解ります。私もそれに感染して、この前デパートで紙で作られた動物の幾つか買っちゃったのです。それから近頃では、そのうちに皆に何か送りたいと思って、あちこち物色して歩いています。お給料をもらってからと未だ何も買ってないけど、頭の中ではいろいろと買っちゃってあるのです。皆と家族してるって気分が嬉しいのです。ではいずれ又。かしこ

千鶴子より

.....